■議事概要（令和６年度第１回滋賀県ふるさと・水と土保全対策推進懇話会）

日時：令和６年(2024 年)７月 31 日（水）10:50～15:15
場所：（現地視察）高島市今津町　南深清水地先
（会議）南深清水集会所＜高島市今津町深清水 533＞
出席者
委員：藤原正幸、石川一郎、上田洋平、熊地吉之、杉田英子、端信子、橋本昌子、小島聖巳（代理）、島林敏雄（欠席）、内記真美（欠席）、前川真司（欠席）
南深清水ＦＦ倶楽部　代表　桂田隆司、副代表　山口、深田、薮内

３　議事概要

１．南深清水ＦＦ倶楽部の取組について

質問１　オリーブを始めた背景や理由を教えていただきたい。

回答１　柿の耕作放棄が増加し、何か違う利活用を考えていたところ、北陸の方でオリーブをしている方がおられ、視察に行った。気候的にもこちらでできると感じたことがひとつの理由である。また、国内のオリーブの自給率が低く、国産の価値が出てくるのではと思ったことも理由である。

質問２　地域の中の合意形成や話合いをどのようにしていったか、教えていただきたい。

回答２　オリーブ栽培のための組織でなく、地域を活性化させて持続するための組織が「南深清水ＦＦ倶楽部」であるということを改めて共有した。数人でも寄り合ってコミュニケーションをとるようにしていきたいと考えている。一方的に思いを伝えるだけでなく、往復でコミュニケーションをとって共有することが大事である。

質問３　龍谷大学や立命館大学の学生との関係はどのように構築したのか。

回答３　龍谷大学を直接訪問し、こういうことがしたいと伝えると、興味を持った教授とつながることができた。その後「しがのふるさと支え合いプロジェクト」を知り、協定の締結をさせてもらった。立命館大学とは、高島市の紹介で学生と知り合い、その学生のゼミの教授とお話ししていろいろな取組が始まった。現在は両大学と一緒に取組を企画しているところである。

質問４　南深清水ＦＦ倶楽部以外の地域の人や子の世代の方たちは取組をどのように感じているのか。

回答４　「何をしているんだ」という感じだが、それでいいと思っている。私たちの取組以降、小さくても変わったことを感じられるときがあり、前進と考えている。

意見４　よそ者が地域で活躍することは効果的。学生のような外部の人が地域をかき回すことで地域の活動に積極的でない地元の若者世代などが関わりを深めて活性化していくこともある（触媒効果）。

２．中山間ふるさと・水と土保全対策事業、中山間ふるさと・水と土保全推進事業
事業実施計画について

意見１　人材育成については講座を受けたら終わりということでなく、そのあとのフォローや関りについても今後検討いただきたい。

意見２　補助事業について地域まで情報が届いていない。地域まで届くような情報発信の仕方と市町との連携、わかりやすい表現の仕方などを検討いただきたい。

意見３　「しがのふるさと支え合いプロジェクト」をはじめ地域の取組が深まり、関わる団体も増えてきたので横のつながりを作り連携すれば、個々でやるよりも大きな力になるのではないか。

―以上―